

業務フロー・コスト分析等の結果に基づく業務改善事例			
独立行政法人名	国立研究開発法人国立成育医療研究センター	部課室等名	財務経理部
対象事業名	調達業務	実施期間	平成27年4月～
分析対象とした事務区分	財源ごとに、職員・非常勤職員・委託職員で処理している調達業務		
分析実施の背景（問題意識等）	業務の流れは同一であるにも関わらず、医薬品・診療材料・一般消耗品・修理修繕・研究費ごとに職員を配置しており、効率的な業務体制となっていないのではないかという問題意識。		
分析により明らかになった点	効率的な業務体制となっていないほか、委託費の積算にあたっては繁忙期の業務量を前提として算出していたため割高になっていた。		
分析結果に基づき講じた改善措置	すべての契約業務を一元管理し共通業務を分担することにより、重複していた業務・無駄だと思われる業務を改善した。また、委託職員については契約期間の都合上、期間満了時点で限定的な業務内容に絞ることにより経費削減を図ることとしている。		
その効果	委託職員2名分の調達業務を効率化した（約7百万円の費用抑制）。		